

# 平成26年度事業報告書

2014年 1月 1日から 2014年 12月 31日まで

特定非営利活動法人ケアリングフォーザフューチャー  
ファンデーションジャパン（CFF）

## 1 事業の成果

### ①-a 海外での開発教育等を活用した青年育成事業

2014年度も従来と同様、フィリピン・マレーシアの両国において、ワークキャンプ、スタディツアー、ハッピーキャンプを実施したほか、新規プログラムとしてミャンマースタディキャンプを実施しました。年間ではこれまでで過去最高の総計19プログラムを実施、のべ351名のプログラム参加者を海外へ派遣することができました。

リーダー育成としては、前年度実施した合宿形式のリーダーシップトレーニングが定着し、今年度もそれぞれのプログラムシーズンで実施することができました。チームビルディングアクティビティで参加者同士が協働する中で、自身の持つリーダーシップに目を向け、集団の中で自身のリーダーシップを発揮する機会を作ることをねらいとしました。

2014年度重点項目として掲げていた「新規海外プログラムの企画・実施」のうち、ミャンマー事業は、当団体初の「スタディキャンプ」として実施しました。2011年に民政移管を遂げ、著しい経済発展を遂げる一方で、格差が生じ、取り残されている人々が多く存在するミャンマー。その社会情勢を「スタディ」し、変革の渦中にあるミャンマー人青年と日本の青年が、子どもたちのための絵本作りという「ワーク（協働）」を通して、互いの絆を深め合う、これまでのCFFスタディツアーやワークキャンプ両方の要素が含まれる取り組みとなりました。社会背景や歴史的背景から生まれる意識の違いなどに両国の青年同士が刺激を受け、それぞれの生き方を改めて考える、まさに「共に育ちあう」というCFFジャパンのミッションが体现されたプログラムとなりました。今後の事業展開については、現地の急激な物価上昇や団体内のディレクターを担える人材の確保などの課題を考慮しながら、継続の有無を含めて引き続き検討していきます。

### ①-b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 -教育機関との協働事業-

新規海外プログラムの企画・実施のうち、大学・高校との提携推進に関しては、フィリピンにおいては順天高校との協働事業が、マレーシアワークキャンプにおいては桜美林大学と合同プログラムを開始しました。

#### <順天高校との協働事業>

文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校である順天高校は2014年度から5年間の計画で「グローバル社会で主体的に活躍する人材育成のための研究開発」を実施しています。その中でとくにフィリピンにおけるフィールドワークについて当団体と協働で進めていくこととなり、2014年度はその1年目でした。

2014年度はSGH指定クラスにおいて当団体スタッフが2回授業を行い、主にフィリピンの基礎知識やボランティア活動、現地支援のあり方を中心にワークショップを実施しました。10月には教員のフィリピン派遣に伴い、現地コーディネーターや企画調整を行い、今後のSGH事業の進め方を共に協議しました。12月の生徒3名のフィリピン派遣においてもコーディネーター役を務め、現地の人々との交流や社会課題の提示を通して、今後5年間で高校生が取り組む国際協力の可能性と方法を、教員・生徒・学校と共に模索しました。

#### <桜美林大学との合同プログラム>

桜美林大学との合同プログラムでは、CFF海外ボランティアプログラム一般参加者と桜美林大学生の混合プログラムとして、マレーシアでワークキャンプを実施しました。今回桜美林大学からは12名の参加者が集まりました。大学で国際理解教育を学んでいる桜美林大学参加者に対し、国際的な社会課題解決のもとになる、考える力、発想する力、自分自身を知る力、相手を理解する力など、人間力の育成に重点を置いてプログラムを実施しました。今後は、大学が求める現地理解や社会課題（貧困・格差など）に対する知識を深めるという要素も取り入れながら、それぞれの役割や合同で実施する目的を明確にしていくことが課題として挙げられます。

### ② 「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業

#### <支援者報告会>

2014年度は、チャイルドケアサポーターや大口の寄付者を対象にした支援者報告会を実施し、21名の支援者に参加してもらうことができました。普段は紙面等のみで事業報告を行っている支援者に対し、現地「子どもの家」の様子や事業内容について写真を使いながら直接説明することで、紙面上では伝わりきらない現地の子どもの様子や日本社会における当団体の存在意義や現在の取り組みを伝えることができました。

#### <年末寄付キャンペーン>

CFFフィリピンで10年間使っていた車の老朽化による『車買い替え』のため、CFFマレーシアで、「子どもの家」メインハウスの『食事作りの環境整備』のため、年末に寄付キャンペーンを実施しました。インフラ整備が十分でないフィリピンにおいては、学校送迎や通院などの日常生活の他、遠方の子どもたちの家庭訪問や施設備品の買い出しなど、児童福祉施設の役割においても、車は欠かすことができません。CFFマレーシアにおいては、児童養護施設のメインハウス建設を進めていますが、子どもたちが生活を送る上で必要となる生活備品は足りていないのが実状です。

主に当団体会員に向けて支援の呼びかけを行ったところ、総額約68万円、のべ56名の方から支援をいただくことができました。この支援により、CFFフィリピンでは新車の購入費の一部を、CFFマレーシアでは、日々の食事作りのためのガスコンロ、冷蔵庫、調理場流し台、調理用換気扇、流し台などの購入費の一部を補うことができました。

### ③ 国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業

前年度までと同様、青年たちによる国内活動チーム主導によって、国際協力イベントや地域イベントへの出展を行いました。フィリピンやマレーシアのおやつ（食販）や、フェアトレード商品・チャリティ・グッズの販売（物販）を支援し、CFF「子どもの家」事業の説明や現地の様子を伝える展示を行いました。特記事項として、都立千早高校のボランティア部の活動場所として、CFFマレーチルドレンプロジェクトに高校生と教員が参加しました。千早高校の高校生とともに、マレーシアにおける不法移民が置かれている社会課題と現状を知らせ、フリーマーケットで得た資金を現地の子ども支援活動に役立ててもらうことができました。

#### <14年度に出展した主なイベント>

- ・ワンワールドフェスティバル（大阪）・ハッピーアースデイ大阪 ・アースデイ東京
- ・アースデイ神戸
- ・グローバルフェスタ（東京） ・よこはま国際フェスタ ・埼玉国際フェスタ
- ・その他大学学園祭、フリーマーケット出店も多数

<2014年度の青年活動チーム（国内活動チーム）>

- ◎CFF運営委員会 ◎キャンプ・スタディツアー実行委員会（春・夏期）
- ◎パンガラニティ奨学金チーム ◎ハッピートレードチーム
- ◎チャイルドケアサポーター増やし隊 ◎マレーチルドレンプロジェクト
- ◎マンゴー'S（野球チーム）◎スポーツ支援チーム“ひまわり” ◎CFF FC(フットサルチーム)
- ◎東松島市復興支援活動チーム
- ◎地方チーム（関西、北海道等） ◎大学チーム（東洋、明学、成蹊等）

<CFFプチフィエスタ、CFFフィエスタ>

2014年度は年に1度の当団体最大イベントである「CFFフィエスタ」の開催時期が変わったことを受け、それに変わるイベントとして1月に「CFFプチフィエスタ」が青年主導で開催されました。約65名の過去プログラム参加者が集い、現地状況の報告や、会員同士の交流が行われました。

6月に開催された「CFFフィエスタ」では、この催しが始まって以来初の試みとして、チーム北海道、チーム関西とをSkypeで繋ぎ、それぞれのチーム活動内容や今後の取組事項を共有する機会となりました。どうしても会全体のイベントは東京で開かれることが多くなりますが、地方チームが抱える難しさや悩みを共有して共に解決したいという青年の思いを事務局としてもサポートしました。この試みを経て、地方で精力的にCFF活動に関わる仲間との繋がりを作ることができ、それぞれのチームの活性化の一助となりました。

④ その他：組織運営について（理事会・事務局など）

【理事会】

●理事会実施回数：計6回

第1回理事会 1月26日（CFF事務局）

第2回理事会 5月10日（CFF事務局）

第3回理事会 6月 8日（CFF事務局）

第4回理事会 7月27日（CFF事務局）

第5回理事会 11月 3日（CFF事務局）

第6回理事会 12月13日・14日（旅館「鳳鳴館森川別館」）※合宿

※第1回理事会、第4回理事会と同日に総会を開催

【スタッフおよびインターン】

●ディレクター担当 : 安部 光彦、石井 丈士、高梨 恵子

●日本事務局スタッフ : 川崎 修（非専従/事務局長～3/31）、石井 丈士（専従）、高梨 恵子（専従）、鈴木 沙彩（非専従～3/31、専従4/1～）田代 美智華（専従4/1～）

●マレーシア駐在スタッフ：安部 光彦（専従・代表理事）※4/1より日本事務局長兼務

●海外事業地インターン : 太田 浩司（マレーシア、～3月）、瀬瀬 明子（フィリピン、8月～9月）、中村 公巳（マレーシア、11月～）

●事務局インターン : 内山 香里（～3月）、佐藤 希美（7月～11月）

<理事会体制および広報マーケティング>

本年度の理事会では、マーケティングを専門とした理事を新たに迎えることができました。専門的なスキルも加えて、海外プログラム参加者の定員充足率100%を目標とした取り組み体制ができたことは、2014年度の大きな成果として挙げられます。

具体的には、広報データの集計、現在の広報方法の分析を通して、プログラム参加者が当団体を知り、申込みまでの傾向が見えてきました。それにより、新たなアプローチ方法や方向性が決定し、その後の効果測定もできるようになりました。この一連のサイクルを経験することで、業務を継続的に改善して

いく意識が高まりました。今後は、策定した改善案と強みの強化に取り組みます。

#### <事務局体制と働きやすい環境整備>

3月の事務局長退任に伴い、マレーシア駐在スタッフであり、代表理事でもある安部が事務局長を兼任することになりました。日本事務局体制としては、非専従スタッフの専従化および新人スタッフを雇用し、若いスタッフ構成で臨むこととなりました。年度当初は厳しい財政見通しでありましたが、若いスタッフが主体的に新規事業や組織運営を担い、乗り切ることができました。同時にそうした経験を重ねたことで人材育成にも結びついています。

また、新規雇用をきっかけに改めて団体内の働き方を見直し、土日出勤の削減や代休を取りやすくするなどの整備に取り組みました。ライフステージの変化があっても働き続けられる環境整備と、そのための具体的な給与体系や配慮がどうあるべきか、今後も検討・整備をしていきます。

#### <インターン制度の整備>

2014年度はインターン制度確立にも注力し、下記の通りインターンの目的を整理しました。

目的1：社会の中にある課題・ニーズに対して、自ら考え行動していくこと。

目的2：CFFの業務に携わり、CFFの課題解決や運営に貢献していくこと。

目的3：自らにある課題を発見し、自身の成長に寄与していくこと。

更に、インターンの形態を1.日本事務局インターン、2. 海外事業地インターン、3. 日本事務局+海外事業地混合インターンに設定し、一般会員や過去プログラム参加者を対象に応募を広く募ることによって、具体的なインターン参加のプロセスを明確にするとともに、参加の機会の間口を広げました。既存のインターン志望書に加えて、担当理事との面談結果を選考条件に入れることにより、その時々々の団体・現地のニーズや本人の適性とのマッチングも行えるようになってきました。今後は海外現地法人にも本インターン制度の意図を明確に説明し、現地においても、共に育成していくという視点を持ってもらえるよう働きかけていきます。

#### <特別な配慮が必要な青年に対して>

精神的な不安定さを抱えている青年、特別なケアを必要とする青年に対して、事務局スタッフおよび理事がチームとなって対応することができました。社会一般で増加していると言われる「生きにくさ」を感じている青年に対し、団体としても居場所作りの可能性を模索していくとともに、専門機関に繋げるなど、次のステップへ進むための支援のあり方などを勉強する必要性が高まってきました。具体的な対応については引き続き組織全体で検討し、動いていきます。

#### <ミッションステートメント全体の明文化>

6月には、1年半もの月日をかけて話し合われてきたCFFジャパンのミッションステートメント全文が制定されました。

#### CFFジャパンミッションステートメント

子どもは希望であり、未来そのものです。

青少年は希望の未来へのかけ橋であり、  
わたしたちすべての人は、共に生かされています。

#### ミッション

わたしたちは、未来の基盤である子どもと青少年と、共に育ちあいながら、  
その誰もが未来に希望を持てる社会を築きます。

教育機関との協働が始まり、企業等からもNPO/NGOとの提携を促進していく動きが見られるようになってきた中で、それぞれ異なるミッションを持つ団体・セクターとの協働の可能性や、その具体的な方法を模索していくことは、引き続き次年度の重点課題となります。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
①-a海外での開発教育等を活用した青年育成事業	フィリピンワークキャンプ	年6回	フィリピン	4名	日本人120名+現地人	33,709
	フィリピンハッピーキャンプ	年1回	フィリピン	2名	日本人18名+現地人	
	フィリピンスタディツアー	年2回	フィリピン	2名	日本人37名	
	マレーシアワークキャンプ (内1回は桜美林大学合同プログラム)	年5回	マレーシア	3名	日本人107名+現地人	
	マレーシアファミリーワークキャンプ	年1回	マレーシア	1名	日本人6名+現地人	
	マレーシアスタディツアー	年2回	マレーシア	3名	日本人40名	
	ミャンマースタディツアー	年1回	ミャンマー	1名	日本人6名	
①-b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 -教育機関との協働事業-	順天高校協働事業	通年	フィリピン	2名	日本人30名	
	※桜美林大学合同プログラムは今年度はCFF通常プログラムに組み入れての実施のため上記に記載					
②「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業	フィリピン「子どもの家」支援	通年	フィリピン	5名	入居児童+周辺地域	5,232
	マレーシア「子どもの家」支援	通年	マレーシア	5名	入居児童+周辺地域	
③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業	イベントへの出展・活動紹介の支援	年10回	都内周辺および関西	のべ約80名	不特定多数 一般	292
	フェアトレード商品等の販売の支援	年14回	都内周辺	のべ10名	会員および一般	

(2) その他の事業：

特になし